おひさまだより

令和５年１２月１日

社会福祉法人 みどり会
みどりの森おひさま保育園

園 長　免出 智美

舞い散る枯れ葉や冷たい風に冬の訪れを感じる頃となりました。早いもので、今年も残すところ１か月となりました。今月は、焼き芋会、餅つき会、クリスマス会と楽しいことがいっぱいです。園では年末にかけて子ども達と大掃除を行い、部屋や箱椅子や机などを奇麗にしながら、ものを大事に扱う大切さや、ものに感謝する気持ちを改めて感じて、今年を締めくくりたいと思います。

１２月行事予定

月	日	曜	行　事　予　定
12	6	水	おひさま広場（未就園児）
	9	土	保護者交流会（うさぎ組）
	12	火	焼き芋会
	14	木	身体測定（幼児組）
	15	金	身体測定（乳児組）
	20	水	餅つき会
	25	月	クリスマス会
	29	金	保育おさめ
1	5	金	保育はじめ

お弁当の日：９日、23 日　　※変更の場合あり

子どもと一緒に遊ぶことは自己肯定感を育てるためにとても有効です。一日 10 分、一緒に遊んで笑って過ごす時間をつくっていきたいですね。

あそべない子ども

遊べない子どもは何かが退屈そうな感じで人の遊びを見ていたり、遊んでいる子どもの所に行ってその遊びを破壊してしまったりしています。うろうろしているだけで、楽しく遊んでいる子どもを見つけると。その「遊び」を手に入れようとして遊び道具を取り上げてしまいますが、その後その遊び道具で遊ぶことはなく他の楽しく遊んでいる子どもの所へ移っていきます。遊び道具が勝手に笑ったり動いたり話したりして刺激を与えてくれないものですから、遊べなくなってしまうようです。そして、遊べない子は次の刺激を求めてさまよい始めます。～岩城敏行著　かしこいおもちゃの与え方～

どんな玩具がいいの？

赤ちゃんに与える食べ物は刺激の少ない物から与えるように、おもちゃも刺激の少ないものから与えるようにしましょう。暴力的な物や刺激の強い物はなるべく少ない方がいいと言われています。強い刺激物を食べさせて育てると味覚が育たないように、強い刺激的なおもちゃ（強い光、音、暴力的など）を与えて育てると面白がる心や感動するこころが育ちにくく遊び下手になるかもしれません。脳の成長期にはできるだけ脳を使う遊び「不思議→なんでだろう？→試してみよう。」と思うような遊びとおもちゃが大切です。子どもが欲しがるからとおもちゃ遊びも子どもだけに任せないで、子どもの成長を考えて大人が選び与えることも大切です。　～岩城敏行著　幼児のおもちゃより～

プリズモ

リモーザ

ロンディ

ハンマートイ

エデュコチェーン

職員研修「主体性を育む保育と環境」では、京都から講師を招き、主体と玩具の関係性を学びました。

11 月・12 月より職員が増えました！

＊どんぐり組担任：上原幸香先生
＊フリー：蜂谷里紗先生、仲田摂子先生、金本碧衣先生
＊保育補助：橋本直美先生

よろしくお願いいたします

ドキュメンテーションから抜粋

子どもは、遊びからたくさんのことを学んでいます。「**何を感じ**」「**気付き**」「**理解できる**」ようになるのか、「**試す**」「**工夫する**」「**表現する**」など学びに向かう力がドキュメンテーションに毎日記録されています。今月は身体を動かす中で楽しさや意欲、達成感、不安感など様々な育ちををドキュメンテーションから見つけてください。

どんぐり（0 歳児）　「秋、いろいろみ～つた！」

道中で見つけた草花に興味を持ち、友だちに見つけた葉っぱやねこじゃらしを渡したりやりとりを楽しんでいました。公園では色づいた葉っぱに気づき、嬉しそうに両手を伸ばしていました。自然や季節を◇・聴覚・触覚・嗅覚を十分に味わい、保育者が共有することにより感性を育みます。

たけのこ（1 歳児）　「かぼちゃの花が咲いた」

いつもの水やりをしていると花が咲いていることに気づき、そのことを言葉で伝える姿がありました。「お花が咲いたね」「お水あげてたからだね」と保育者と言葉を交わしながら植物に親しみをもったり、植物の成長に関心をもったりと実体験を通して色々なことを感じています。

りす（2 歳児）　「登って、滑って、かくれんぼ♪」

「なんでこんなにおっきんだ～い！」「なんでこんな所にあるん！」など自然の不思議さを見つけ、発見も楽しみ、隠れたり、登ったりと色んな遊びを見つけています。自然の中で遊ぶことで不安定な足場でもバランスをとりながら進むことで体幹の力もついていきます。

うさぎ（3 歳児）　「雨ならではの…！」

カッパのボタンに難しさを感じながらも指先を使って自分で着ようとしたり友だちに手伝ってもらいながら散歩の準備をします。雨の粒や冷たさを五感で感じながら雨ならではの発見と面白さを友だちや保育者に共有して楽しんでいます。

そら（4 歳児）　「きれい！もっとやってみる～水の波紋～」

湿った砂でまず、固く作ろうと頑張った後、川に投げてみると表面に波紋が広がることを発見しました。どうすれば投げるまでに壊れないか一緒に試行錯誤する姿も。言葉なく水面に模様が広がっていく様子を見つめ、友だちと一緒に自然の美しさに心を動かされる一時でした。

ひかり（5 歳児）　「編んで、つなげて!」

鎖編みが、指編みになり、リリアン編みに発展しました。初めは数人で始まった鎖編みも「やってみたい！」とやったことのない友だちにまで広がっています。自分が経験して分かることを教えたり、編んでいくうちに手早く編めるようになったり、単調な動きの中に手指の操作性や空間の認知力を養い、集中力を高めています